

## 談話室

## わが大学の思い出—神戸大学—

福永修三\*

私が大学を卒業したのは昭和46年であるから、今日まで早いもので10余年になる。元来、筆不精で劣等生であつた私に一代前前の随筆など書けるものではないのだが、思い出すままに書くのが随筆とか。そこで、「大学の思い出」を何ら一貫性のない雑感として記述することをお許し願いたい。

私は当時、神戸の須磨に住んでいて、阪急電車の六甲駅で下車し徒歩で大学に通つていた。サクラがらまんと咲き乱れる春の日、初めて大学の門をくぐつた時のことは今も忘れない。また、神戸の代名詞である神戸港と六甲山に囲まれた我が大学は、秋には香気のある木犀が私の目を楽しませ、夜はというと「百万ドルの夜景」が一望に見わたされた。このように良い環境で学生時代を過ごせたことは私の感受性向上に一役買つていたように思う。しかし一方では、学生時代を通して大学紛争の時期にあたり、先生方も学生も苦勞が絶えなかつた時代でもあつた。先生方との関係もそれだけ深かつたようにも思える。

私は機械工学科に籍を置いていた。子供がロボットや自動車などの動くものに興味を示すように、私もプラモデルを買つてきては動く機械を造ることが好きであつた。従つて卒業研究は村田英人先生の機構学を選んだ。研究内容はダブルリンククレーンのリンク機構の計算機による最適設計を対象にした。このリンクのカップラー曲線が直線になるよう種々の数値計画法の手法を用いて最適化して、その実用性を検討しクレーンを設計した。

鉄という材料のもつ変幻自在さを身をもつて体験したのもこの卒業研究のテーマを通してであつた。村田先生の口ぐせは「論より証拠」であつたが、理論計算の終わったころ模型を作るように言われた。模型は主としてAUTOMATというスイス製の機構組立セットを利用して組み立てたが、一部分、継手として球継手が必要となつたが格好のものが無かつた。そのためボールベアリングのボールに穴をあけて自製する必要が生じた。ボールに3mmの穴をあけることぐらいは簡単と思つてやってみると硬くてドリルの刃が立たなかつた。それでも長時間かけて力まかせにやってみたが満足なものではできなかつた。結局、一度焼なましてグラインダーで両端を平らにし、そのあとボール盤で穴あけし、再び焼入れるというやり方を考えつくまで数日かかつた。それまで中

川・猪飼両先生の材料の講義で焼入れ・焼なましの話は聞いていたが、それは生産の話であつて、日常生活には関係ないという先入観をもつて聞いていたのである。この経験によつて鉄という材料のもつ柔軟性というものがよくわかる一方、大学の講義を単なる高等な知識としてしか考えていながつた自分を反省した。

村田先生は阪急六甲駅の近くの飲み屋や三ノ宮の焼肉屋へ私と私の友人をよく連れていかれた。研究室でのみならず、飲みながらの教えは、指導者と指導を受ける者との上下関係を越えた師弟関係で結ばれていたように思われ、今でも私の記憶に残つているゆえんであろう。

忘れられない先生の一人に振動工学を講義され、私の講座主任でもあられた川井良次先生がおられる。先生は大の音楽好きであつた。昼一じようもあるステレオのスピーカーが所狭しと応接間の大部分を占めていた。お宅にお邪魔した時はいつもドイツで買ひもとめられた「会議は踊る」のレコードを聞かされ、一緒に歌わされた。ナポレオンのブランディーを左手で飲みながら単に振動学だけでなくいろいろな教えを受けた。その第一は「紳士であること」であつた。謙虚で、礼儀正しく、常に自分の人間性を高める努力をするとともに他人の幸せを願ひ、さらに、感受性を高めることである。つぎに、「独創的人物になること」、創造性に富み、本物とにせ物を見きわめ、周囲の雑音にも惑わされず実行に移す忍耐と勇気と責任を持つ姿勢である。この手段として左手を動かし、音楽を聞くことであつた。最近読んだ龍角散の社長であられる藤井康男氏の著書に同じようなことが書かれていたが、まったくその通りだと思ふ。また、やろうと思つたことは失敗を恐れず自信をもつて最後までやり遂げようとする強い精神力を養うことも教えられた。

以上は思い出の1コマにすぎず、個を尊重され、自ら個性豊かな先生がたくさんおられた。切削工学の鳴滝良之助先生、構造力学の進藤明夫先生、内燃機関の松本隆一先生および材料関係の中川先生や猪飼先生である。とくに、結晶構造に対する猪飼先生の手とり足とり（たまにはゲンコツを貰うこともあつたが）の実験は身にしみている。また、私のいた講座は10名で構成されており、友人にもユニークな者がいたが、紙面の都合で紹介できないのが残念である。

思い出深い先生方とこれら友人とは、今でも年一回、一同神戸に集まり、二次会・三次会と夜更けまで飲み歩きながら、おのおのの考えていることを語り合うのである。私は講義の内容よりもこれらよき師弟関係および友人関係で結ばれた人と人との触れ合いで感化されたことが多かつたように思う。

\* 川崎製鉄(株)水島製鉄所